

「報恩感謝」

巖城 浩人

昨年の終わり頃と今年の1月12日夜のテレビ番組で、「全国のお坊さん大集合『ぶっちゃけ寺スペシャル』」というタイトルの番組を放送しておりました。ひと昔前までは、このようにお坊さんが出演するトーク番組はあまり見たことはありませんでしたが、最近はお墓の問題や葬儀についてのテレビ番組が増え、お寺に関する話題が特定の人に止まらず、一般の方々にも興味を湧くようになってきているのではないかと思います。

この番組の中で、お寺と神社の比較について住職さんと神主さんが話をされている時に、ある宗派の住職さんが「宗旨・宗派は違っても、仏教とは『生きている間に修行をして仏様になりたい』ということが目的であります」ということを言われました。一口に仏教と言っても日本には色々な宗旨・宗派の教団がありますが、一般的に禅宗と言われるところでは、「自らが修行して仏様になる」ということを求めておられるようですが、私たち浄土真宗では、「どれだけ修行をしてもそれが完全に成就するのはごく一部の人のみであり、私たちができることは、ただ阿弥陀如来（仏）を信じ、南無阿弥陀仏の名号を称えることにより救われるのです」と宗祖親鸞聖人がおっしゃっているように、私たち浄土真宗を信仰している者にとっては、この聖人の言葉を身に受け、日々報恩感謝の気持ちをもって生活を送ることが大切なことではないかと思います。